

# 市民マラソンの大会満足度および再参加意図

## に影響する要因の検討

～維新の里 萩城下町マラソン参加者を対象として～

岡崎祐介<sup>1)</sup> 井川貴裕<sup>1)</sup> 福田一儀<sup>1)</sup>

**Study of factors affecting Overall Satisfaction and Re-Participate in the Event:  
A case study of Hagi Joukamachi Marathon**

Yusuke OKAZAKI<sup>1)</sup>, Takahiro IGAWA<sup>1)</sup>, Kazunori FUKUDA<sup>1)</sup>

### 抄録

本研究では、第 19 回維新の里 萩城下町マラソンの完走者を対象として、大会満足度および再参加意図に影響する要因の検討を行った。完走者 2,605 名に対し調査票の回収数は 427 票であり、不備なく回答した 339 名を分析の対象とした。分析方法は、大会満足度と再参加意図を従属変数とし、イベント満足度を独立変数としたステップワイズ法による重回帰分析により、大会満足度および再参加意図とイベント満足度との関係性を検証した。その結果、イベント満足度の項目のうち「スタッフ」「コース」「広報」「給水所」の満足度が高いほど大会満足度が高くなり、「スタッフ」「参加費」「コース」の満足度が高いほど再参加意図が高くなることが示唆された。城下町マラソンの参加ランナーはスタッフの丁寧な対応やコースの魅力、充実した広報活動、地域住民の「おもてなし」の精神により満足感をより高めると示唆された。また、スタッフ対応、コースの魅力とともに、参加費の適切な設定がリピーターの創出を左右することが推測された。

**KEY WORDS:** 市民マラソン、大会満足度、再参加意図、スポーツイベント

---

1) 至誠館大学ライフデザイン学部 〒758-8585 山口県萩市椿東浦田 5000 番地  
Department of Life Design, Shiseikan University, Chintou urata5000, Hagi ,758-8585Japan

## 1. 緒言

笹川スポーツ財団の「スポーツライフ・データ」によると、2018年のジョギング・ランニング実施率（年1回以上）は9.3%であり、推計実施人口は964万人であった。2012年の調査（実施率9.7%、推計実施人口1,009万人）をピークに、2014年の調査（実施率9.5%、推計実施人口986万人）、2016年の調査（実施率8.6%、推計実施人口893万人）と減少傾向にあったが、若干回復したといえる。しかし、ピーク時の2012年と比べると約50万人の減少があることは生涯スポーツの観点からは看過できない状況である。また、ジョギング・ランニング活動にさらに熱心な層といえる「週2回以上」でみると、2018年は実施率3.6%、推計実施人口373万人であり、ピーク時の2012年（実施率3.7%、推計実施人口385万人）から約12万人減少している。つまり、ジョギングやランニングをする人は徐々に減ってきており、2007年にはじまった『東京マラソン』をきっかけに増え続けたジョギング・ランニング人口は、そのブームが一段落したと考えることができる。

このような現状の中、地域活性化と関連したスポーツイベントは積極的に開催されており、マラソン大会もジョギングやランニングの実施人口の増加に伴ってその数を増やしてきた。岡本(2011)は、スポーツイベントへの参加などの「する」スポーツコンテンツの増加は旅行消費額拡大が期待でき、スポーツ・ツーリズム振興と地域のスポーツ振興を合わせた地域活性化策を考えていくべきだろうと述べている。一方、地域によってはマラソン大会の開催が困難になり、実施できないケースも出てきている。その理由としては、前述したようにジョギング・ランニングのブームが一段落したことによる競技人口の減少をはじめ、運営スタッフの高齢化、大会コンテンツのマンネリ化などが挙げられる。これらのことから、マラソン大会の継続した実施とともに、参加者の安定した確保は地域活性化策として重要な課題であると考えられる。

先行研究において、備前ほか(2016)は市民ランナーがマラソン大会の参加の制限となるものとして、「コスト」、「スケジュール」、「ロケーション」および「大会内容」があると報告している。また、北村ほか(2000)は、生涯スポーツイベントにおいて、高い満足度が得られれば、その後の参加継続や運動の継続の動機づけになる可能性があることを示唆した。さらに先

森ほか(2014)は、大会満足度が高ければ、再参加意図が高まることを報告している。以上のことから、スポーツイベントを成功させ、参加者やリピーターを増やすためには大会満足度を高めていくことが重要であるといえる。しかしながら、大会の給水、コース、広報など細分化したコンテンツごとの満足度（以下、イベント満足度）と大会全体の満足度との関係性や、再参加意図との関係性を検討した研究は少ない。

そこで本研究では、山口県萩市で開催された『維新の里 第19回萩城下町マラソン』の完走者を対象とし、ランナーの大会満足度および再参加意図とイベント満足度との関係について明らかにすることを目的とする。

## 2. 方法

### 1.大会の概要

『維新の里 萩城下町マラソン（以下、城下町マラソン）』は、2000年に第1回大会が開催され、2017年大会に10kmの部が取りやめられるまで年々参加者を増やしてきた。競技種目は4種目（ハーフマラソン、5kmの部、2kmの部、ファミリー2kmの部）のうち、性別、年代別でカテゴリーを選択できる。特にハーフマラソンでは、コース中盤で萩城下町を中心に名所旧跡の立ち並ぶ歴史的景観の中を走れることが特徴である。岡崎ほか(2016)によると、過去の城下町マラソンのランナーに対して行った調査では、アンケートに回答した約9割が大会に満足したと回答している。

### 2.調査対象及び方法

調査は、2018年12月16日（日）に開催された「維新の里 第19回萩城下町マラソン」の完走者を対象とし、調査票を用いて実施した。完走者数2,605名に対し、調査票の回収数は427票であり、そのうち不備なく回答された339票を分析の対象とした。（有効回答率79.4%）調査票は、調査員が完走したランナーに直接回答を依頼し回収した。その際、口頭および書面にて、本調査の目的と倫理的配慮について説明を行い、同意した場合のみ質問紙へ回答するように依頼した。

大会のエントリー種目、スタート数、フィニッシュ数、出走率、完走率の詳細については表1および表2のとおりである。

種目	エントリー数	スタート数	フィニッシュ数
ハーフマラソン	2,526	2,053	1,963
5kmの部	454	341	341
2kmの部	204	187	187
ファミリー2kmの部	127	114	114
合計	3,311	2,695	2,605

出走率(スタート数/エントリー数)	81.4
完走率(フィニッシュ数/スタート数)	96.7

### 3.調査内容

本研究では、先行研究を参考に作成した調査票を使用した。調査項目の内容については以下のとおりである。

- 1) 基本的属性：性別、年齢、居住地、職業
- 2) ランニング活動：エントリー種目、萩城下町マラソンへの参加経験および参加回数
- 3) 大会満足度：大会全体、広報、コース、制限時間、給水所、トイレ、スタッフ、参加者交流、沿道応援、観光情報、参加賞、参加費
- 4) 再参加意図：来年度への大会参加意思
- 5) 自由記述

回答形式は、基本的属性およびランニング活動、自由記述は記述形式、大会満足度および再参加意図は「大いにあてはまる」から「全くあてはまらない」までの7件法で回答を求めた。

### 4.分析方法

統計処理には、SPSS Statics Base Ver23 を用いた。大会満足度と再参加意図を従属変数とし、イベント満足度を独立変数としたステップワイズ法による重回帰分析により、大会満足度および再参加意図とイベント満足度との関係性を検証した。なお、いずれの場合も危険率5%未満をもって有意とした。

## 3. 結果

### 1.基本的属性

表3は、対象者の基本的属性を示している。性別では、男性が78.8%(267名)、女性が21.2%(72名)であった。年齢構成は、40歳代が34.8%(118名)を占めており、次いで、50歳代(81名)、30歳代(18.0%)の順に多かった。居住地では、山口県内の参加者が65.2%(221名)、山口県外の参加者が34.8%(118名)であった。

	n	%
性別		
男性	267	78.8
女性	72	21.2
年齢		
10歳代	18	5.3
20歳代	35	10.3
30歳代	61	18.0
40歳代	118	34.8
50歳代	81	23.9
60歳代	22	6.5
70歳代	4	1.2
居住地		
山口県内	221	65.2
山口県外	118	34.8

### 2.ランニング活動

表4は、対象者のランニング活動を示している。初めて城下町マラソンに参加したランナーは45.7%(155名)おり、過去に参加したことがあると回答したランナーは54.3%(184名)であった。そのうち、「2回目」の大会参加が23.4%(43名)で最も多く、次いで、「3回目」が20.7%(38名)、「5回目」が14.1%(26名)であった。

表4 ランニング活動

	n	%
参加経験		
初参加	155	45.7
リピーター	184	54.3
参加回数		
2回	43	23.4
3回	38	20.7
4回	21	11.4
5回	26	14.1
6回	14	7.6
7回	2	1.1
8回	6	3.3
9回	2	1.1
10回	12	6.5
11回	1	0.5
15回	3	1.6
17回	3	1.6
18回	1	0.5
19回	5	2.7
無回答	7	3.8

### 3.大会満足度に対する要因分析

本研究の基本統計量は表5のとおりである。

	平均値	標準偏差
大会満足度	6.39	0.91
再参加意図	6.23	1.08
広報	5.70	1.14
コース	6.10	1.10
制限時間	5.75	1.41
給水所	5.70	1.41
トイレ	5.79	1.33
スタッフ	6.39	0.94
交流	5.54	1.43
沿道応援	6.24	1.08
観光情報	5.37	1.38
参加賞	5.45	1.40
参加費	5.47	1.36

表 6 に大会満足度を従属変数としたステップワイズ法による重回帰分析の結果を示す。第 1 に「スタッフ」(p<0.001)、第 2 に「コース」(p<0.001)、第 3 に「広報」(p<0.01)、第 4 に「給水所」(p<0.05)が回帰式に投入され、36.5%の分散が説明され、以下の式が算出された。

$$y = 0.319X_1 + 0.182X_2 + 0.115X_3 + 0.068X_4 + 2.103$$

以上の式より、「スタッフ」「コース」「広報」「給水所」の満足度が高いほど、大会満足度が高いという関係性が明らかとなった。

	非標準化係数		標準化係数		有意確率
	B	標準誤差	ベータ	t 値	
(定数)	2.194	.302		7.255	.000
スタッフ	0.319	.049	0.329	6.488	.000
コース	0.182	.044	0.218	4.139	.000
広報	0.115	.040	0.143	2.846	.005
給水所	0.068	.033	0.104	2.065	.040

#### 4. 再参加意図に対する要因分析

表 7 に再参加意図を従属変数としたステップワイズ法による重回帰分析の結果を示す。第 1 に「スタッフ」(p<0.001)、第 2 に「参加費」(p<0.01)、第 3 に「コース」(p<0.05)が回帰式に投入され、24.4%の分散が説明され、以下の式が算出された。

$$y = 0.395X_1 + 0.135X_2 + 0.140X_3 + 2.103$$

以上の式により、「スタッフ」「参加費」「コース」の満足度が高いほど、再参加意図が高いという関係性が明らかとなった。

	非標準化係数		標準化係数		有意確率
	B	標準誤差	ベータ	t 値	
(定数)	2.103	.404		5.204	.000
スタッフ	0.395	.064	0.328	6.144	.000
参加費	0.135	.043	0.168	3.149	.002
コース	0.140	.054	0.138	2.583	.010

## 4. 考察

本研究は、城下町マラソンの完走者を対象としてイベントの成功や参加者の獲得に重要とされている大会満足度や再参加意図とイベント満足度との関係性を明らかにすることを目的とした。

大会満足度において、山口ほか(2011)は、大会参加者はボランティアの対応に魅力を感じており、イベント主催者はランナーとボランティアが交流できる場を提供する必要があると述べている。本研究の結果において、大会満足度に最も影響を与えている要

因として「スタッフ」が選択された。この「スタッフ」は運営委員やボランティアの対応についての満足度を示している。「自由記述」においてもスタッフに対する感謝の言葉が多くみられたことから大会の成功やリピーターの確保を考えたときにスタッフの丁寧な対応は非常に重要な要因であるといえる。

また、大会満足度の高いほど、再参加意図が高いという関係性が明らかとなった。城下町マラソンの最大の特徴である萩城下町を中心とした歴史的景観の中を走れることは参加ランナーにとって大きな魅力となっている。しかし、5 kmの部や 2 kmの部では萩城下町を走るコース設定ではないため、今後はエントリー種目ごとに分析を検討する必要がある。また、回帰式に「広報」が投入されたことにより、大会満足度はホームページやチラシの充実などにより決定する可能性が示唆された。「給水所」においては、城下町マラソンでは公式の給水所だけでなく地域住民の好意によりコース上に給水所やエイドが設置されている。「自由記述」にも地域の方が設置している給水所への感謝が多くみられたことから、大会の満足度を決定する重要な要因であるといえる。

一方、再参加意図においては「スタッフ」および「参加費」、「コース」が大きく影響している結果となった。この結果から、大会満足度を従属変数とした重回帰分析と同様に、運営委員やボランティア等のスタッフの対応や、萩城下町を走る特徴的なコース設定が再参加意図に影響を与えていることが推測できる。大会満足度と再参加意図の両方に関係をもつこれらの要因は、今後の大会の継続的な発展を考えたときに非常に重要なものとなる。

「参加費」が「スタッフ」に次いで再参加意図を決定する要因となっている。今大会から参加費が上がったことが影響している可能性もあり、今後大いに検討する余地がある。

以上より、城下町マラソンの参加ランナーはスタッフの丁寧な対応やコースの魅力、充実した広報活動、地域住民の「おもてなし」の精神により満足感をより高めると示唆される。また、スタッフ対応、コースの魅力とともに、参加費の適切な設定がリピーターの創出を左右すると推測される。

## 5. まとめ

本研究から、「維新の里 第 19 回萩城下町マラソン」は大会満足度が高く、なかでもスタッフの対応や給

水所の充実などホスピタリティに関して高評価を得たことが確認できた。実際に、この城下町マラソンは約 1,000 人のスタッフ（ボランティアを含む）で運営し、沿道では多くの市民が声援を送った。自由記述では、参加者からスタッフ対応や沿道の応援に対する感謝の声が多くみられたことも地域密着型のイベントとしての特徴といえる。

継続的な市民マラソンを目指すうえで、参加者の満足度とともに次回大会への「再参加意図」が高いことも非常に重要である。城下町マラソンは県外からの参加者も多数おり、ランナーへの観光情報の提供や宿泊施設の紹介等の広報活動の充実も今後の大会の発展を目指す取り組みとして課題であると考えられる。

本研究では、「維新の里 第 19 回萩城下町マラソン」のみの分析となり、考察には限界も多くあった。今後も縦断的に調査を行うことでより多くの資料を得る必要がある。山口県内の市民マラソンや、城下町マラソンと類似したコンセプトで開催している市民マラソン等との比較による信頼性や妥当性の向上も視野に入れていかなければならない。

また、本調査は調査票の回収部数が少なく、完走者の意見を十分に反映しているとは言えない。調査票の内容を再度検討することも含め、より多くの完走者の意見を反映できるような配布および回収システムの構築が必要である。

## 6. 謝辞

本研究の調査にご協力いただいた萩城下町マラソン大会実行委員会、萩市スポーツ振興課ならびに貴重な回答データを提供していただいた大会参加者のみなさまに深く感謝を申し上げます。

## 引用・参考文献

備前嘉文、二宮浩彰、庄司博人（2016）市民マラソンランナーが都市型市民マラソン大会への参加を検討するにあたり生じる構造的制約，生涯スポーツ学研究，30：1-14.

北村尚浩、川西正志、波多野義郎、柳敏晴、萩裕美子、前田博子、野川春夫（2000）生涯スポーツイベント参加者の大会満足度：菜の花マラソン参加者のスポーツライフスタイルによる比較，鹿屋体育大学学術研究紀要，23：25-31.

松本耕二、野川春夫(1991)ホノルルマラソン完走者の満足要因の分析-日本人完走者を対象として-，レクリエーション研究，25：38-39.

岡崎祐介、福田一儀(2017)第 16 回維新の里 萩城下町マラソンに関する調査報告，至誠館大学研究紀要，4：71-82.

岡本純也（2011）地域活性化策としてのスポーツ・ツーリズムの可能性，一橋大学スポーツ研究，30：60-66.

先森仁、秋吉遼子、山口泰雄（2014）大会満足度と地域愛着が市民マラソンの再参加意図に与える影響に関する研究-県内・県外参加者に着目して-，神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要，8(1)：107-113.

笹川スポーツ財団スポーツライフ・データ，ジョギング・ランニング実施率の推移，<https://www.ssf.or.jp/research/slldata/tabid/381/Default.aspx>，最終アクセス日時：2019.4.26

山口志郎、佐々木明子、山口泰雄、野川春夫(2011)マラソンランナーの参加動機と Push-Pull 要因に関する研究：NAHA マラソンにおける県内・県外参加者に着目して，神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要 4(2)：57-67.